



自然観察

No.127
2019.3月

目次

・総会議案書案 2018年度事業報告	2
2019年度事業計画(案)	4
・2018年度フォローアップ研修会開催報告～危機管理対策を中心に論議～	6
・2019年度総会・講演会・懇親会のお知らせ	6
・特別連載 雪と生きる北海道の菌類 (1)砂浜のきのこたち	7
・フィールドニュース	10
・ウォッチングレポート	13
・参加者の声	15
・事務局だより	16



オホーツク管内初確認種「コホオアカ」の飛翔

総会議案書案 2018 年度事業報告

1. 観察会実施状況報告について

(1) 一般観察会

2018 年度の観察会は、親子夏休み自然観察会を除き、46 開催が予定され、6 開催の中止を除き現在（1/28）まで 38 開催が無事終了しました。このうち報告書未着および報告書不備の 6 開催を除く 32 開催について、集計しましたので概要を報告します。

一般参加者 延べ 544 人（年代別未記載者 14 人）、参加指導員数 延べ 108 人。年代別参加者数では、年代記載者 530 人中 60 代が 208 人。以下 70 代 189 人、50 代 49 人となっています。（計 446 人）

最終集計は 4 月の総会で報告、及び会報 128 号に掲載します。各観察会の実施状況はその都度会報に掲載しています。

(2) 「親子夏休み自然観察会」について

森と池の生き物たちを観察しようを掲げ、好天にも恵まれ、植物観察や池の生き物の種類分け、生き物同士のつながりなどを学習し、充実した活動になりました。

開催日：7 月 28 日（土）

場 所：札幌市北方自然教育園

参加料：一家族 1,000 円

参加者：一般参加者 2 家族 5 人（子供 3 人、大人 2 人）※指導員 3 人

2. 会員研修会について

(1) 全道研修会

天候に恵まれ予定通りの行程を順調に研修活動ができた。中頓別鍾乳洞公園では、宗谷自然学校の協力を得て初夏の植物と石灰岩鍾乳洞・奇岩（軍艦岩）を観察、天塩研究林では専門職員にテシオコザクラ、オゼソウ群生地、アカエゾマツの林地に案内していただき中身の濃い研修となった。

開催日：6 月 4 日（月）～5 日（火）

場 所：中頓別鍾乳洞公園（中頓別町）

北大天塩研究林（幌延町）

参加者：8 名（会員 5、一般 3）

(2) ブロック研修会（道央ブロック）

松浦展の開催の意義、武四郎の足跡の概略を説明して頂いた後展示見学をした。日誌や書簡など膨大な資料であった。常設展では 右代学芸員の説明があり、特に北海道の先史時代の内容に質問が続出した。

開催日：7 月 13 日（金）

場 所：北海道博物館（札幌市厚別区）

「松浦武四郎展」「常設展」

講 師：右代啓視氏（学芸員）

参加者 21 名（会員 11、一般 10）

(3) 指導員フォローアップ研修会について

事例報告を基に意見交換をした。特に観察会活動中の危機管理についての実践交流がなされた。参加者は 11 名。NACS-J の冊子「自然保護」にも失敗から学ぶ観察会の報告があり、リンクした内容となった

開催日：11 月 17 日（土）18:00～20:00

場 所：札幌エルプラザ 2F 環境研修室

内 容：失敗から学ぶ観察会～実践交流事例発表：鈴木ユカリ理事

3. 会報発行について

2018 年度発行の会報は、125 号（6/12）、126 号（10/16）、127 号（3/15）計 3 回。

編集部会は各会報発行毎に 1 回開催し、計 3 回行いました。

4. 総会・講演会・懇親会について

(1) 総会

日時：4 月 7 日（土）13:00～14:30

会場：札幌エルプラザ 2F 環境研修室

議事：2017 年度事業報告、会計決算報告・報告、2018 年度事業計画案、会計予算案、その他などの議案が報告・提案され了承されました。

(2) 講演会：15:00～16:45

（総会后、同じ会場にて一般公開で開催されました。）

演題：「北海道の地質と岩石～世界的な島弧～海溝系のジオのしくみ」

講師：新井田 清信氏（北海道大学総合博物館/様似町アポイ岳地質研究所）

(3) 懇親会：17:30～19:30

「山わさび」にて理事・会員などが新井田講師を囲んで和やかなに行われました。

5. 理事会の開催について

理事会は 5/21（月）、8/27（月）、10/20（土）、12/15（土）、2/4（月）、4/6（土、予定）に 6 回開催。第 4 回理事会終了後に懇親会を実施しました。

6. 事務局関係について

前年度の事務局担当不在の状況が改善され新事務局担当者（佐藤修）が加わり、理事会や三役会議など円滑に進めることができました。なお、編集部では部員不足のため作業等に

支障をきたしております。今後補充が必要です。

7.組織の状況について

2019年2月21日現在で会員数226名。
会員名簿を作成し会員に配布(10月)。

8.北海道自然観察協議会のホームページ

観察会予定、観察会報告など随時更新。

<http://www.noc-hokkaido.org/>

2019年度2月4日までの観察会の実施は、38件でした。ホームページに報告を掲載したのは、23件で半分程度で、写真の掲載は僅か7件でした。大多数は文字による報告で、観察会の様子が中々、想像できないようです。会の活動を積極的に発信するためにも、観察会終了後に報告と写真を数枚程度観察部に必ずお送りいただくようお願いします。写真は、参加者が含まれる場合は事前に承認を得るようお願いします。

また観察会のみだけでなく、会主催「総会」「講演会」、「道庁・植物園」観察会、「研修会」などの報告と写真は、会の全体を知って頂くようになると思いますので、宜しくお願いします。

9.観察会の広報について

観察会の開催案内を以下に掲載
ウォッチングセンター「ウォッチングガイド」、
★ナビ北海道、北海道環境生活部環境室環境課、札幌市環境局環境都市推進部推進課、「えこほろ」、北海道環境サポートセンター・メールニュース環境

10.他機関との連携、交流について

(1) 講師派遣依頼

- ①札幌市南区民センター「自然散歩」講師
- ②フォーラム野幌の森「第27回春の観察会」「第28回観察会」講師
- ③三菱電機社内研修「野幌の自然観察」講師

(2) 共催・後援など

後援名義使用団体：北海道教育委員会、
小樽教育委員会(自然観察指導員講習会関係)

【備品・分野別ガイド】

得意分野での疑問や地域情報の問い合わせに回答される方々です。

豊平川水系水生昆虫、魚類 札幌市さけ科学館 011-582-7555 〒005-0017 札幌市南区真駒内公園 2-1
昆虫(甲虫) 堀 繁久 011-571-2146 〒005-0832 札幌市南区北の沢2丁目20-18
植物全般 与那覇モトコ 0133-74-7952 〒061-3211 石狩市花川北1条2丁目148
分野別ガイドとしてご協力頂ける方は、事務局へ連絡をお願いします。

備品	数量	保管先
実体顕微鏡 ニコンファール ミニ	2台	横山武彦(江別市) ☎ 011-387-4960
追い込網	2本	同上
大型旗(120×180)	1枚	山形誠一(札幌市) ☎ 011-551-5481
ポール (折りたたみ式)	3本	同上
トリプルバグビューアー	3台	同上
シュレッダー	1台	同上

「自然観察指導員講習会」の案内とPRをお願いします

今年も『自然観察指導員講習会』を開きますので、ご案内申し上げます。(別添チラシ参照)

この講習会は、日々の自然観察を家族や知人と楽しむだけでなく、広く市民に、その魅力、素晴らしさを伝える人材を養成するために隔年で開いています。

- ・6月1日(土)～2日(日)
- ・小樽自然の村 おこぼち山荘
- ・参加費 29,000円

自然観察の視点、自然の保護、自然観察会の企画・開催方法について専門家から講習をそれぞれ受けます。

知人・友人等で自然観察に興味・関心を抱いている人に対する勧誘、関係機関に対するチラシ揭示の依頼等、PRについて皆様の特段のご協力をよろしく願ひ申し上げます。

総会議案書案 2019年度事業計画(案)

1. 観察会の開催について

- (1) 今年度の観察会実施計画は別表の「2019年度自然観察会の予定指導員用」の通り、「親子夏休み観察会」を除き34開催が予定されています(2月4日現在)。今回掲載以外にも企画があれば観察部山形へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。
- (2) 各観察会連絡担当者の方は、観察一般参加者名簿、指導員用名簿及び19年度観察会予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。
- (3) 観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は観察部会計小川へ送付ください。振り込みを利用する方は、会計(小川)へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。

口座番号：2770-9-34461

加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

- (4) 観察会の予定及び実施状況は会報及び北海道自然保護協会のHPでお知らせします。
<http://www.jade.dti.ne.jp/~nchokkai/kansatsu.html>
- (5) 各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。また、観察会当日の写真がありましたら、観察部へお送り下さい。ホームページへ掲載いたします。
- (6) 観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。
- (7) 観察会の参加費について
観察会の参加費については、下見や資料の準備などで経費の赤字問題も指摘されているため200円を基本とする。なお、観察会ごとに取組み内容やそれに関わる準備が異なるこ

とから、それぞれで適正な金額を設定することとし、これまで通り100円で実施できる観察会は継続して実施していく。
(2020年度より実施)

2. 「第552回 NACS-J 自然観察指導員講習会 北海道」の開催について

日本自然保護協会・北海道自然観察協議会(共催)の指導員講習会で自然の楽しさ、不思議さの「見る眼」と「伝え方」についてフィールド等で講習会を行う。
開催日：2019年6月1日(土)～2日(日)
場 所：小樽市 「おたる自然の村」

3. 会員の研修について

- (1) 全道研修会
開催日：2019年6月8日(土)～9日(日)
場 所：アポイ岳周辺(植物と地質)
内 容：日高山脈アポイ岳の固有の植物とらんらん岩の地質や歴史を訪ねる。
 - (2) ブロック研修会(道央2ブロック：後志、胆振・日高地区担当)
 - (3) フォローアップ研修会(未定)
- ※研修部からの全道研修及びブロック研修の実施計画の提案を基に、研修の充実に向けしっかりと実施していきます。

4. 会報発行について

128号(6/15)、129号(10/15)、130号(3/15)、年3回発行予定。また、事務局ほか各部などの原稿の最終締め切りは発行日の45日前とします。

5. 「親子夏休み観察会」については、今年度は「札幌市北方自然教育園」と共催の形で進めることで予定しています。

開催日：2019年8月4日(日)
場 所：札幌市北方自然教育園

内 容：森と水辺フィールドにおける自然観察と生き物採集とスケッチ等

6.2019 年度総会・講演会・懇親会

<総会>

日 時：4月6日（土）13：00～14：30

会 場：札幌エルプラザ 2 階環境研修室 1・2

<講演会>（15:00～16:45 同会場で開催）

演 題：「カササギ～北海道にやってきた七夕伝説の鳥～」

講 師：長谷川 理氏（EnVision 環境保全事務所）

<懇親会>（総会終了後、17：30～19：30）

会 場：山わさび

会 費：2,800 円(予定)

7.保険について

共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり 50 円の保険料を協議会へ送って下さい、但し、1泊2日以降は該当しません。

保険会社代理店：ケイティエス 本間 茂 電話 011-873-2655 日曜、祝日休業 普通傷害保険（エース損害保険株式会社） 死亡保険：600 万円、入院保険金額：5,000 円（180 日以内）日額通院保険金額：2,500 円（90 日以内）日額
--

【観察会事故緊急連絡】事務局へ連絡をお願いします。

※保険に関して：基本的に参加者の名簿が重要で名簿の記入後から、保険の対象となり帰宅まで（帰宅径路を大幅に外れない範囲で）有効です。また、指導員の車に乗せて、観察場所を回る場合でも集合時に名簿の記載があり観察会の参加者であることが分かれば保険の対象と

なります。

8.事務局関係について

(1) 理事会

5/20(月)、8/26(月)、10/19 (土)、12/7(土)、2/3(月)、4/4(土) 年 6 回開催予定

(2) 各地域の活動の状況や課題などをお知らせいただき、会員がより活動しやすい体制を作り、活動を支援して行きたいと思っております。また、会員各位から寄せられた事業及び観察会の予定や実施状況は、会報及び当会の HP でお知らせします。

(3) 個人情報保護法について

北海道自然観察協議会では、個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法の趣旨に基づき、入手した個人情報は、観察活動の目的以外には利用しません。また、保有する個人データは適正に取扱い、第三者に提供することはありません。会員各位におかれましても、個人情報の取り扱いには留意され、特に会員名簿は外部に流失しないようにお願いします。

(4) 講師派遣依頼について

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。

(5) 今後の役員体制について

只今、編集部は 2 名体制で運営しており、会報発行作業に難儀しているのが現状ですが、なかなか成り手がおりません。今後のことを考えると本協議会の役員についても同じ懸念があります。次の役員・部員候補を発掘し、会の運営を継続していけるように今から地盤固めを考えていく必要があると思っております。

2018 年度フォローアップ研修会開催報告

～危機管理対策を中心に論議～

指導員の資質向上を図る狙いで行われるフォローアップ研修会が去る 2018 年 11 月 17 日、札幌のエルプラザにおいて 11 人が参加して行われました。

今回のテーマは「失敗談から学ぶ観察会の開き方」と題して行われましたが、研修会では報告者から提起された想定外の出来事に遭遇した時の対処の仕方である危機管理対策を中心に、参加者からの体験なども交えて、熱心に論議が交わされました。

横山会長の主催者あいさつの後、事例報告として鈴木ゆかり理事から 2017 年 9 月に行った札幌市精進川河畔公園で行った観察会の時に遭遇した想定外の突風によるオニグルミの実の突然落下に伴う恐怖の体験談についての報告が行われました。

この時は、幸いにけが人は出なかったものの、もし出た時の対応の仕方、とりわけ誰にどのように報告したら良いのかそのシステムが判らなかったのが、協議会としてもきちんと決めて置くべきでないかという提案がされました。

この報告を受けて横山会長が座長になって、観察会で遭遇する様々な危険に、どう対処したらよいかを中心とした失敗談から学ぶもの・対策について参加者全員でフリートーキングを行いました。

トーキングでは、これら想定内はもちろん想定外の危険についての遭遇については、「ハチ、ヒグマ、ウルシなどのあらかじめ危険と判るものについて事前にきちんと PR しておくべき」とか、「想定外の危険生物とか事故等に遭遇したら、まず被害者の手当てをすると同時に、症状が重い場合の病院への搬送、協議会事務局への速やかな連絡、保険会社への通告等を速やかに行うべき」等の意見が出されました。また参加者が体調を崩して観察会参加を続けられず、途中で戻る場合も、「症状如何によって指導員が責任をもって送っていくべきだ」という意見も出されました。

その他の危機管理対策としては、「応急手当のキットを必ず指導員は準備しておくべき」、「子供、特に低学年の子供参加するとき、どんな行動に出るか判らないので特に気を付ける」、「防虫スプレーなどの(化学)薬剤、並びにイネ科植物等に対するアレルギーがある人についての配慮などが必要」などの様々な意見、経験談が出されました。

トーキングでは、これら危機管理対策を中心としたものになりましたが、その他の問題として「企画・広報」、「開催準備・下見」問題から始まって「当日・開催・スタッフの連携」、「観察指導・ガイド」並びに「伝え方・伝えたいこと・観察会のテーマ」などの問題もありましたが、時間切れとなったため、次回の研修会の時に行うことで、閉会となりました。(村元健治)

2019 年度総会・講演会・懇親会のお知らせ

《総会》日時：2019 年 4 月 6 日（土）13：00～14：30

場 所：札幌エルプラザ 2 階環境研修室 1・2(札幌市北区北 8 西 3 TEL 011-728-1222)

議 事：(1)2018 年度事業報告 (2)2018 年度決算報告・監査報告 (3)2019 年度事業計画案 (4)2019 年度予算案 (5)その他

《講演会》15：00～16：30(場所は総会会場)

演 題：『カササギ～北海道にやってきた七夕伝説の鳥～』

講 師：長谷川 理氏 (EnViSion 環境保全事務所)

《懇親会》17：30～19：30 場所：山わさび(北区北 8 条西 3 丁目 予定)

会費(予定)2,800 円 ※参加希望者は、3 月 31 日まで事務局の佐藤にご連絡ください。

TEL011-272-3038 e-mail zd844422@xf6.so-net.ne.jp

【特別連載】

雪と生きる北海道の菌類

(1) 砂浜のきのこたち

星野 保 (産業技術総合研究所)
糟谷大河 (千葉科学大学)

◆ はじめに

本連載では3回にわたって、北海道に生きる様々な菌類たち、特に積雪環境に適応した菌類を海辺から草原を抜け、森林へと生態系ごとに紹介したい。道内の自然に興味のある読者の方々なら、菌類とは何かイメージがあると思う。菌類は、驚くべきことに系統的には私たち動物に最も近いグループである。また、その実態は、きのこ(子実体)でありカビ(菌糸・孢子)である。普段野外で目にするのはあまりない酵母もいる。そして生態系では主に有機物の分解を担当し、動植物に寄生するものや、さらに進んで様々な植物・藻類と共生するものが存在している。

菌類と聞いて、きのこをイメージする人は多いだろう。そしてその生息環境は、“木の子”と当てる字もあるように森林が一般的だろう。だが、どこからともなく侵入する印象のあるカビはさて置き、そのきのこですら^{ひとけ}人気のない浜辺に生えている(写真1)。



写真1. 石狩浜にみられるきのこ。ハマニンニクの根元に発生するザラミノシメジ属の一種 (A) とスナジクズタケ (B)。いずれも 柄や菌糸束が長く汀線近くの砂浜から第一砂丘にかけて発生する。アカダマスツポントケ (C)。子実体が発生していると独特の臭いでわかる。これを掘り出すと、「卵」と呼ばれる構造をもつ。卵は空気に触れるとその名の通り、薄い赤～紫色に変化する。国内での標本を伴う記録は道内(石狩・斜里)および新潟県のみである。

◆浜辺にすむ植物病原菌

夏、ハマニンニクの群落が突然枯死し、円形に砂地が現れることがある（写真 2）。周囲を観察するときのこ、スナジホウライタケが目につく。本菌は高い環境適応能（耐熱・耐塩性）と早い菌糸成長を武器にする腐生菌だと思われる。人工的にスナジホウライタケをハマニンニクに接種しても、直ちに宿主が枯死するわけではないから病原性は弱いのだろう。しかし、その貪欲な成長と吸収に巻き込まれた植物はたまったものではないのだろう。特にハマニンニクは相性が悪く、野外での枯死が目立つ。



写真 2. スナジホウライタケによるハマニンニクの枯死 (A) とその子実体 (B)。

◆ 漂う菌核？

晩秋を過ぎても砂浜にきのこがみられる。寒さをこらえて砂浜を歩いていると、ふと大人の親指が入りそうな穴がある（写真 3A）。これはスナヤマチャワンタケと呼ばれる子囊菌類の 1 種だ（これまで紹介したきのこは、全て担子菌類だ）。強風に吹かれてほとんど砂に埋まってしまったものもある。中は暖かいのか、ハサミムシなどが隠れていることがある。

さらに下を向いて歩みを進めると、汀線に続くなだらかな砂浜でハマニンニクやコウボウムギの群落の中に、小さな棍棒あるいはマラカス状の物体を目にするかもしれない（写真 3B）。これも担子菌類のきのこなのだ。スナハマガマノホタケは、石狩浜で採集された標本をもとに 2009 年に正式登録された菌だ。これまでに道内では、余市・小樽・石狩・枝幸・斜里で、本州では秋田・山形・新潟・富山・石川・福井・京都・鳥取の日本海側各県、太平洋側では青森県下北半島（糟谷ら未発表）で採集されている。類似のきのこはロシア・サハリン島、欧州デンマークの浜辺にも見られたらしい（いずれも A. Shiryaev, H. Knudsen 私信）。雨などで砂浜が湿っていたら、きのこの下を慎重に掘ってみると砂にまみれた菌糸束（これがとても切れ易い）の下に菌核がある。菌核は、植物のむかごや球根に相当する耐久器官で、菌糸が耐えられない環境をこれでやり過ごす。

この菌は、晩秋に子実体から胞子を飛ばしてハマニンニクなどに取り付いて、雪の下で菌糸を伸ばす。人工的に培養して、ハマニンニクに接種すると菌糸束の先に、いびつなハマエンドウの種のような菌核を作る。本種は活物寄生をするが、病原性はなく宿主となったハマニンニクの成長に影響はない。

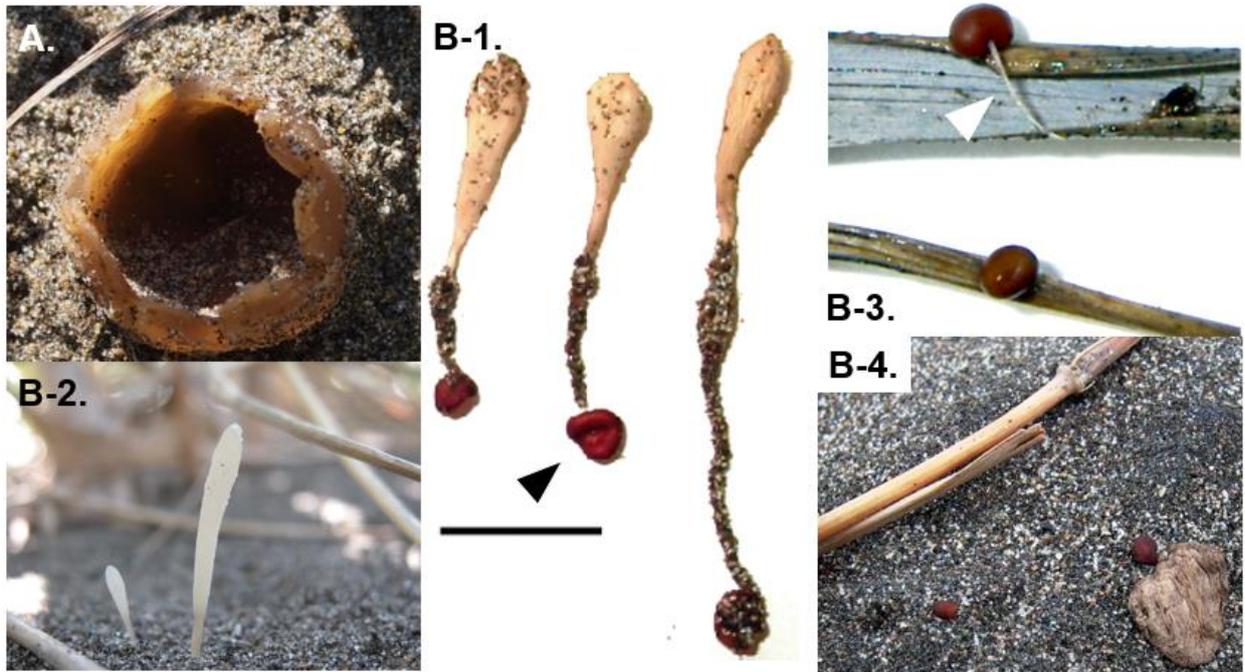


写真 3. 晩秋に砂浜にみられるきのこ。スナヤマチャワソウ (A) とスナハマガマノホタケ (B)。子実体 (B-1、 2)。バーは 1 cm、▲は菌核。人工条件下にハマニンニク上で形成した菌核 (B-3)。△は菌糸束。台風通過後、打ち上げられた菌核 (B-4)。

春、砂浜の雪が解けるとハマニンニクなどは成長を開始する。浜辺に吹く風は強く、菌糸束は容易にちぎれ、植物の上に形成した菌核は宿主の周辺に落ち、やがて砂に埋まり、夏の暑さをやり過ごす（この辺の仕組みは、スナハマガマノホタケの生き方に合わせて、とてもよく出来ている）。何もなければ、その年の秋にきのこが見られるはずだ。

浜辺を歩く人は知っていると思うが、その地形は変わりやすい。台風や爆弾低気圧が過ぎた後、心配して菌核の埋まったあたりに行くと、案の定、植生どころか地形ごとなくなっていることがある。驚いてあたりを見回すと、浜辺に打ち上げられた様々な物に交じってスナハマガマノホタケの菌核が転がっていることがある。培養した菌核を海水に浮かべて、1週間振とうすると約半数の菌核は浮いており、その全てが生きていた。つまり、荒天による大きなかく乱を受ける環境に生きるスナハマガマノホタケは、これを逆手にとって海流分散によって分布域を広げている可能性がある。木材腐朽菌は流木と共に移動することが知られている。これに比べてスナハマガマノホタケは、（擬人的な表現を許してもらえば）裸一貫で荒海に乗り出しているのだ。実際、どの位の距離を移動するのだろうか？今後さらに調べてみたい。

会費の納入についてのお願い

日頃から、当協議会の活動にご支援をいただきありがとうございます。本会の活動は、会員の皆様から寄せられる会費を唯一の財政基盤としております。これらの運営をスムーズに進めるためにも、年度末を控え、会費未納の方は、納入のほど、宜しく願いいたします。

- ・年会費は、個人会員は 2000 円、家族会員は 2 人目から 1500 円です。



郵便振替口座 02710-1-8768 会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 加藤秀史

オホーツク海を覆いつくす流氷

斜里町 山川いづみ

神奈川の湘南で私は生まれ育ちました。

年に3回ほど、撮影旅行で北海道へ足を運んでおりましたが、自分の表現力のなさを痛感しました。

自然との関わり方がわからず、また生態についても理解しなければ表現が出来ないと思い、まず学ぼうと北海道へ移住したのは約3年前の事です。



私が湘南で暮らしていた場所から仕事へ向かう時、海岸線を走ります。

左手に太平洋があり、海ではたくさんのサーファーやボディーボーダー、夏は多くの海水浴客が砂浜を埋め尽くしています。

天気の良い日は目の前に富士山を眺めることが出来ます。

今住む知床も、網走方面から帰宅すると、左手にオホーツク海を眺めながらの運転になります。途中、知床連山が見えてきます。

姿は変われど、どこか懐かしい気持ちになります。

しかし湘南と違うことがあります。

それは、「流氷」です。

秋からオホーツク海はシケやすくなり、短い期間ですが「波の花」が見られるようになります。

冬へと着々と季節は進んでいきます。

海水温が-1.8℃になると海面は凍りだします。

沖に見え始めた流氷は、潮の流れや風向きで近づいては離れ、離れては近づきいつの間にか海一面

は流氷に埋め尽くされていきます。

今まで聞こえていた波の音は徐々に消えて、時折聞こえるのは流氷がぶつかり重なりあう音へと変わっていきます。



ツアーで流氷原を歩くことができます。

(*注 個人で乗ることは大変危険なのでやめましょう。)

びっしりと詰まってしまっていれば、氷の上を歩いている状態なので歩きやすいのですが、一つ一つがさほど大きくないものは、波により回転したり移動するので、ジャンプをして渡ったりします。

私は運動神経が良くないのでこの作業は、本当に苦手です。



もし落ちて挟まれたらどうしようとか、打ちどころが悪かったらやだなあ等無駄に悪いことばかり考えてしまいます。

そんな時は毎回、子供の頃に見た「南極物語」のテーマソングが頭の中に流れています。

夕方になると白かった世界は、オホーツクサーモン色の夕日に照らされ赤く染まりだし、徐々に暗闇に飲まれていきます。
月明かりに照らされた流氷。聞こえるのは風の音と流氷の動く音のみです。

流氷の割れ目には、水鳥が集まり流氷の下へ潜っては魚を取る姿を見ることが出来ます。
この時期になるとオオワシ・オジロワシの凜々しい姿もまたよく目にするようになり、稀にアザラシを見ることもあります。
キタキツネは食べ物を探しにどこまでも続く流氷の上を歩いていきます。
流氷の上から海を覗くとヒラヒラと漂うクリオネを見ることが出来ます。

春が近づいてくると、流氷は音を立て崩れ落ちながら岸から離れだします。
そして静寂だった海はまた、波の音を奏で始めます。
流氷が消えるとオオワシやオジロワシの姿も見られなくなります。
(オジロワシは、留まる個体もいる。)



流氷で海は閉ざされますが、その間も多くの生き物たちの様々なドラマをみることが出来ます。
温暖化の影響なのでしょうか？
年々減ってきているといわれている流氷。
この素晴らしい自然の姿を次世代に残せるといいのですが・・・

ウオッチングレポート



東川町 キトウシ森林公園 2018/10/13

大雪山麓の東川町キトウシ森林公園は、真っ青な空に紅葉が映え、眼下には稲刈りが終わった田が秋の深まりを感じさせていました。

木漏れ日の森を歩き始めます。ミズナラやシナノキが多い中に、倒れかかったシラカンバがありました。代表的な先駆樹種で、寿命は80年ほど。森の世代交代の説明に、皆さん真剣に耳を傾けます。

広葉樹の森は、紅や黄に色づいた葉が個性満開です。淡いクリーム色はコシアブラ。陽光を浴びた透明感がとてもきれいで、「葉緑素を幹に戻してから落葉するので色が淡いですね」という説明

に納得。1時間半で展望台に到着。木々が成長して見晴らしは今ひとつですが、ナツハゼやナナカマド、ヤマウルシなど、紅の競演が見応えありました。

ホー、ホー、何の音？ オオイタドリを切った笛。みんな童心に返って、「作って、作って～」となり、フー、ポー、ヒーとにぎやかです。最後はあまい綿あめのような匂いの、カツラの黄葉を観察して終了となりました。

(笠間邦裕)

湧別町・佐呂間町・常呂町 秋のオホーツク 2018/10/14

1. シブノツナイ湖の湖岸で、ヤマトシジミ漁の漁法・生産量・水質管理・生態などを紹介。

2. 「秋のオホーツク観察会」に因んで、ススキを観察。葦との識別やススキの髓のつくりと断熱効果を生かした屋根材としての使用等を紹介。

3. シブノツナイ竪穴住居跡の現地を見学。土俵様に多数広がる窪地、シブノツナイ湖やオホーツク海、海岸草原や木立、そして湧別川河口の近くという立地を実感し、当時のオホーツク海岸の自然や生活ぶりをそれぞれ感取。

4. 予定したカワウの観察は7月の台風で200羽程いたコロニーが破壊され、丁度巣立ちの時期と相俟ってカワウは離散してしまったので、河口域の岸辺で採餌するカワウを観察。

5. 湧別町郷土館で学芸員より、シブノツナイ遺跡の出土品など発掘調査の現況と湧別町で発見されたナウマンゾウ臼歯から分かることの解説を受け、施設見学。

6. サロマ湖北西に位置する鶴沼(塩性湿地)の岸辺で、アッケシソウ・シバナ・ウミミドリの塩生

植物を観察。アッケシソウの花のつくりや種子の他、耐塩性のしくみを資料で紹介後、時季後半ではあったが観察。更にウミミドリや準絶滅危惧種のシバナも潮位が下がり観察。

7. 知来地区の石灰岩採石場跡で赤色チャートや石灰岩の付加体露頭を観察。深海に堆積した石灰質微細プランクトンによる成因の紹介、現地石灰岩を用いた炭酸ガス発生実演を観察。

8. 観察最終地のワッカ原生花園では、はじめにオホーツクの代表的な「秋の虫の声」をCDで聞き、実際に鳴き交わす秋の虫の声を耳にしなが、今季最終の海岸草原の植物を観察。ハネナガキリギリス・エゾエンマコオロギ・カンタンを聞き、ハマナス・ムラサキベンケイソウ・エゾツルキンバイ・シロヨモギ・オグルマソウ・キタノコギリソウ・テンキグサ(ハモニク)・エゾカワラナデシコ・エゾノコウボウムギ・クサフジ・ハイネズなどを観察。

(相原繁喜)

苫小牧市 秋の錦大沼 2018/10/14

9月の台風のせいか、塩害のため木の葉の枯れが目立ち、紅葉の楽しみが半減する年になりました。

しかし確実に秋は深まっていくようです。木々の実が楽しませてくれます。

ナツハゼ・ワタゲカマツカ・ヤマウルシなどです。ツタウルシ・ヤマウルシの紅が目立ってきています。また秋の楽しみキノコが目を見たいと思います。

私たちの観察会には、キノコの生態に詳しい人がいますので、キノコの説明や、役割など習うのですが、難しく、また種類が多すぎてついてゆけません。

自然に親しんで、少しずつ自然の仕組みを理解していくことが、自然を保護することにつながると思います。

このような観察会を増やし、盛んにしていきたいと思います。
(白崎 均)

小樽市 長橋なえぼ公園 2018/10/21

秋晴れの中、公園内をゆっくり散策しながら木の実や植物・虫などを観察しました。今回は、なえぼ公園の「森の自然館」指導員の山本さんにも参加していただき、公園内の木々や植物に

ついてのお話も聞くことができ、大変勉強になったと思います。最後に、セミナー室で雪虫の生態について後藤指導員から説明があり、終了・解散となりました。
(日下部久)

苫小牧市 晩秋のウトナイ湖 2018/10/21

風もなく天候に恵まれ良い観察会になりました。フィールドは台風21号の風倒木が所々にありましたが観察会に影響はありませんでした。

(観察できた植物(花)・動物・昆虫など)

木本:オニツルウメモドキ・エゾノコリンゴ・ズミ・チョウセンゴミシ・メギ・ウラジロハコヤナギ・イボタノキ・コナラ・ミズナラ・カシワ・ノブドウ・キタコブシ(冬芽)・ケヤマウコギ・カラコギカエデ

草本:エゾノコンギク・エゾリンドウ

鳥類:オオハクチョウ・ヒシクイ・マガン

魚類:コイ

蜘蛛:ヤマトゴミグモ(卵囊)・カバキコマチグモ(卵囊)

おびただしい数の渡り鳥が休憩していて参加者には満足して頂いたとおもいます。またエゾノコリンゴとズミに花が咲いていて思わぬサプライズに大喜びでした。

(宮本 健市)

苫小牧市 北大研究林 2019/1/20

当日はうすぐもり、風もなく、-3℃ぐらいの天候でした。

この時季ですので、冬芽や樹皮、足跡、野鳥を観察することになります。

明治30年代の長野辺りから移入、性質や用途、最近の高温乾燥機の導入による集成材の利用など、駐車場の向かいにあるカラマツから始めました。近くにあるハリギリ、ヤチダモ、ハルニレなどの樹形、冬芽は高いところについています。ヤチダモ、ハルニレ、エゾヤマザクラ、ミズナラ、ハンノキなどは、冬芽の標本を見せ

ながら進めました。

キャラボク、ヨーロッパトウヒ、メタセコイヤ、チョウセンゴヨウ、キタコブシ、アカエゾマツ、トドマツなども取り上げました。キツネやリスの足跡の実物を見ながらその特徴を考えました。相変わらずカラ類は近くに來ます。灌木園の近くで、数日前ミソサザイの写真を撮ったので、その写真を見せて話をしながらその近くに來ると、運よくミソサザイが出ました。

(谷口勇五郎)



参加者の声



札幌豊平区 北海道の名付け親 松浦武四郎 2018/7/13

札幌市清田区 三浦 さち子

先日、北海道博物館に誘われまして、何も知らずに皆と「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎展」を見てきました。家族の事で東京から帰って、10℃以上の温度差に慣れず頭がボ～っとしていたのと、歴史は苦手なのであまり興味がなかったのですが。

博物館に着きますと、自然観察協議会の会長・先輩方が沢山いらっしゃり、私も少し、しゃんとしてきました。ただ、どんぐりの森の会の集まりではないのだなあと感じました。

まず 展示室に入る前にどういう事をした人か、どんな人かと松浦武四郎についての説明をしていただきました。

1818年生まれ、身長147cm。旅している時は、多い時で一日60km～70kmも歩いたそうです。生家は伊勢街道に面していて、伊勢神宮の参拝に沢山の人達が通るのを子供の頃から見ていたので、旅を試みたいと思っていたそうです(武四郎が13才の時は半年で500万人が伊勢神宮を参拝していた)。

旅の巨人とはどういうことなのかと展示室に入ると、旅をしながら風景の絵をととても上手く描くし、墨と筆で細かい文字で書き綴った和紙のノート、立ち止まってスラスラと書いたの

でしょう。その冊数が旅ごとに沢山ありました。当時、北海道は未開の地でずっと海沿いの道を歩いているのです。

2回目の蝦夷地探索から武四郎は幕府にやとわれ、歩いた報告書を書きまとめ、提出していました。全部で6回も蝦夷地を歩き、アイヌ民族の協力がなければ踏破は出来なかったのです。アイヌの人達とふれあううちに、アイヌの幸せを願う気持ちがしだいに強くなり、幕府の考えと対立してしまいました。

石狩日誌、十勝日誌などは、お雇いとして記した報告書をもとに執筆、多少は脚色されている。

武四郎は1859年、北海道の地図26枚を大きな1枚に貼り合わせました。今の地図と形も地名も同じ、とても詳しく描いてあります。アイヌの絵を描いた掛け軸が沢山展示してあり、とても楽しそうな絵です。武四郎は蝦夷地の事をよく知っているの、沢山の人に蝦夷地の事を聞かれ、教えたそうです。ここには書ききれないほど、沢山の事をして沢山の人達に伝えたのです。

札幌市北区 秋の屯田防風林 2018/10/6

当別町 小坂健介・由佳

北海道に来て以来、気になる林があった。平地に整然と列をなす木々。原野を切り拓き、人は自然とどう折り合いをつけてきたのか。いざ、防風林へ。並んだ木の実に幼い子供たちは林を歩く「視点」をいただいた。「さあ、歩こう！」とスタートするよりも、「木の実、草の実、いくつ見つけられるかな？」との具体的なテーマで子供たちの関心はぐっと高まった。

奔放な幼い子供との参加で振り回されたが、みなさんの気遣いで親子ともに楽しむことができた。

オオウバユリの裂開した果実に整然と並ぶ種子に目を見張り、花を咲かせるまでには7年とも8年とも、このユリは君たちより年上なんだと聞いてキョトンとする子供たち。

せつなすぎる雪虫トドネオオワタムシの生活史には感じ入った。

数日経って、子供たちの上着からオオウバユリの種がハラハラとこぼれ落ちた。花開いている光景が目には浮かんだ。

来年はきっと、花咲く頃に訪れよう。

旭川市 亀上美代子

久しぶりの晴天に恵まれ、すがすがしい気持ちで総勢 17 名で出発しました。駐車場から眼下に広がる田園風景と紅葉を見て、これからの道中がとても楽しみになりました。散策路の入り口で真っ赤なウルシのような木がありました。初めて見る木で、ヌルデという名前で葉と葉の間に翼があると説明を受けヤマウルシとの違いを教えてくださいました。展望閣の周りには、ハウチワカエデが沢山有り、真っ赤なハウチワカエデと青い空とのコントラストが素晴らしく感動しま

た。散策路を歩いて行くと、赤い岩があちこちにあり、キトウシ山がかつて海底にあったと思われる痕跡だと説明を受けました。展望台ではナツハゼ、ヤマウルシ、ナナカマドが並んで紅葉を競い合っていました。途中イタドリで笛を作ってもらい、音を出すのに苦戦しながら子供にかえって遊びました。色々な草花や木の名前など教えてください、森林浴でリラックスし、カツラの甘い香りに癒され、満足した一日となりました。



☆今年も総会、講演会、懇親会の開催日が近づいてきました。お気軽に参加してみませんか。新しい出会い、発見があるかも。☆今年も2年振りに NACS-J と共催で指導員講習会が小樽で開かれます。指導員講習会参加者募集はもちろん、総会終了後の講演「カササギ～北海道にやってきた七夕伝説の鳥」、並びに全道研修会「日高山脈アポイ岳固有種の植物とかんらん石の地質や歴史を尋ねる観察会(6月8～9日)のチラシをそれぞれ同封しましたので、皆様方の参加並びに宣伝、宜しくご協力をお願いいたします。

☆前号から今号までの間、理事会が3回(10/20、12/15、2/4)ほど開かれました。いずれの会も、各部からの報告の後、当面する催し・活動等について協議してきました。(む)

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 〒047-0155 小樽市望洋台 3-13-5

Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観察部 山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14

Tel/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会・住所変更連絡は 事務局 佐藤 修 〒060-0004 札幌市中央区北4条西13丁目1-47-303

Tel/Fax 011-272-3038 E-mail zd844422@xf6.so-net.ne.jp

投稿や原稿は 編集部 村元 健治 〒006-0852 札幌市手稲区星置2-8-7-30

Tel/Fax 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

事故発生等緊急時は ケイティエス 担当 本間 茂 Tel 011-873-2655

表紙写真

山口紘司



自然観察 2019年3月15日/第127号 年3回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)

発行 北海道自然観察協議会